

青森県平川市

基本情報

- 気候： 夏季：温暖、冬期：多雪
- 土質： 灰色低地土、グライ土
- 従事人数： 2人(家族のみ)
- 臨時雇用： なし
- 飼料用米の作付開始： H25年産

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	16.1ha	30a
飼料用米(直播)	0.9ha	30a
大豆	8.9ha	—
作業受託 (稲の刈取・調製)	11.0ha	—



ペースト肥料導入と補給作業省力化

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- 借地を主体に、水稻と大豆の規模拡大
- 作業受託により、機械装備の有効利用と所得増大
- 作業省力化を進め、家族労働のみでの経営を実践
- 簿記記帳による経営分析と機械メンテナンスを自ら行い、コスト削減

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- 肥料(移植)
 - ① 当初使用していたペースト肥料が小型の20kg入りで、補給に手間がかかることから、大容量化でのコスト低減を図るため、500kg入りタンクを導入
 - ② 自作のホースでペースト肥料の補給作業時間短縮と軽労化
- 機械(移植)
 - ① 肥料散布作業の省力化を図るため、側条施肥田植機を地域に先駆けて導入
 - ② 側条施肥田植機で上下2段に施肥することにより、基肥(上部)、追肥(下部)の施用を田植と同時に完了し、夏季の追肥作業を省略

導入効果

• 施肥

割安な大容量肥料の利用により

肥料費 ▲約1割

肥料補給作業省力化及び追肥作業省略により

労働時間 ▲約1割

(農家からの聞き取りによる当初との比較)

支援体制

- 農協の営農担当者や先進地視察での情報収集
- 県の農業普及振興室による施肥量検討試験で、効果を確認

課題・今後の目標

- さらなるコスト低減
(スマート農機(食味や収量を計れるコンバイン等)の導入)